

黄 璉華 (ファン・リャンフア) 先生の講演に寄せて

渡部 富栄

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 看護学科

黄璉華 (ファン・リャンフア) 先生は台湾を代表する看護リーダーで、私が通訳で関わっている国際看護師協会関連の会議では、もう 20 年近く存じ上げている。国際会議での自らの学びについて黄先生がよくする話がある。「台湾では若い看護師の離職率が高い。賃金が安い、夜勤があるなどで、病院で働きたくないようだ。(専門団体の責任者として) 彼(女)らに一体何ができるのだろうか」とずっと考えてきた。(国家間の通貨の力を等しく調整した購買力平価を使って計算すると) アジア諸国の中で、マカオの看護師の賃金がどこよりも一番高い。マカオの代表者らにどのようにして賃金を引き上げていったのかを尋ねたら、『大卒だから高いのだ』と答えた」。

マカオでは、まず看護師教育を大学教育に統一し、そのあと当局に「看護師は大学で教育される仕事なので、工学や理学など他の分野の大卒者と同じレベルの賃金を与えられるべきだ」と訴え、それを実現したのだ。

他国の状況を知ることで、新たな解決策やアプローチのヒントを得ることもできる。黄先生は、このマカオの代表の話聞いて大きな気づきと力を得た。台湾の看護師の賃金を他の医療従事者と同等にし、準・深夜勤手当の増額を勝ち取り、看護師の待遇改善を進め、看護師の定着を促していく。

今年の Zoom ウェビナーは逐次通訳で進めた。同時通訳と違い、逐次通訳では少し話してもらってそこで止めて通訳をするので 2 倍の時間がかかるが、英語を聞いたあとで通訳を聞くことができるので、聴く者の理解が深まり、講師と聴衆に一体感が生まれることがよくある。大卒看護師の必要性和看護師のリーダーシップ、看護への投資の重要性といったキーワードが出てくる後半のダイナミックな質疑応答は、そうした時間の共有になったかもしれない。熱い講演をしてくださった黄先生に心から感謝を申し上げる。